

2課

十字架の言葉

7月11日

安息日午後

7月4日

暗証聖句

十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあずかるわたしたちには、神の力である。(I コリント 1:18、口語訳)

十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。(I コリント 1:18、新共同訳)

今週の聖句

I コリント 1:17～31、コロサイ 1:20、I ペトロ(ペテロ) 2:24、
使徒言行録(使徒行伝) 13:16～47、I コリント 2:1～5

今週のテーマ

ローマの異教徒の作家であり雄弁家であったキケロは、十字架という処刑の手段があまりにも忌まわしいものであるとして、ローマ市民に対し、十字架について考えることさえ禁じるように説いていました。キケロは、イエスが誕生される半世紀ほど前に亡くなりましたが、彼の言葉は、ローマ人が十字架に対して抱いていた軽蔑の念をよく示しています。

対照的にパウロは、「十字架の言葉は……神の力です」[口語訳「十字架の言は……神の力である」](I コリ 1:18)と記しています。パウロにとって、十字架は神と人との和解の手段であり(エフェ(エペ) 2:16、コロ 1:20)、イエスのへりくだりの最高の象徴であり(フィリ(ピリ) 2:8)、私たちの途方もない負債が支払われた場所でした(コロ 2:14)。

十字架は、コリントの諸問題に対するパウロの答えでした。コリントの信徒への手紙 I (コリント人への第一の手紙)を少し読むだけで、彼が教会内の分裂という大きな問題に深く心を痛めていたことがわかります。パウロはあまりにも当惑していたので、挨拶(I コリ 1:1～3)と感謝の部分(同 1:4～9)のすぐあとに、この主題をまず取り上げています(同 1:10～17)。

今週は、この問題とコリントにおけるほかの諸問題への答えとして、十字架の力強いメッセージに目を向けましょう。

I コリ 1:18 (新共同訳)

1:18 十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。

エフェ 2:16 (新共同訳)

2:16 十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。

コロ 1:20 (新共同訳)

1:20 その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。

フィリ 2:8 (新共同訳)

2:8 へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。

コロ 2:14 (新共同訳)

2:14 規則によってわたしたちを訴えて不利に陥れていた証書を破棄し、これを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。

I コリ 1:1～17 (新共同訳)

1:1 神の御心によって召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロと、兄弟ソステネから、

1:2 コリントにある神の教会へ、すなわち、至るところでわたしたちの主イエス・キリストの名を呼び求めているすべての人と共に、キリスト・イエスによって聖なる者とされた人々、召されて聖なる者とされた人々へ。イエス・キリストは、この人たちとわたしたちの主であります。

1:3 わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

1:4 わたしは、あなたがたがキリスト・イエスによって神の恵みを受けたことについて、いつもわたしの神に感謝しています。

1:5 あなたがたはキリストに結ばれ、あらゆる言葉、あらゆる知識において、すべての点で豊かにされています。

I コリ 1:18 (口語訳)

1:18 十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあずかるわたしたちには、神の力である。

エペ 2:16 (口語訳)

2:16 十字架によって、二つのものを一つのからだとして神と和解させ、敵意を十字架にかけて滅ぼしてしまったのである。

コロ 1:20 (口語訳)

1:20 そして、その十字架の血によって平和をつくり、万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく、彼によってご自分と和解させて下さったのである。

ピリ 2:8 (口語訳)

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

コロ 2:14 (口語訳)

2:14 神は、わたしたちを責めて不利におとしめる証書を、その規定もともぬり消し、これを取り除いて、十字架につけてしまわれた。

I コリ 1:1～17 (口語訳)

1:1 神の御旨により召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロと、兄弟ソステネから、

1:2 コリントにある神の教会、すなわち、わたしたちの主イエス・キリストの御名を至る所で呼び求めているすべての人々と共に、キリスト・イエスにあってきよめられ、聖徒として召されたかたがたへ。このキリストは、わたしたちの主であり、また彼らの主であられる。

1:3 わたしたちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。

1:4 わたしは、あなたがたがキリスト・イエスにあって与えられた神の恵みを思っていて、いつも神に感謝している。

1:5 あなたがたはキリストにあって、すべてのことに、すなわち、すべての言葉にもすべての知識にも恵まれ、

1:6 こうして、キリストについての証しがあなたがたの間で確かなものとなったので、

1:7 その結果、あなたがたは賜物に何一つ欠けるところがなく、わたしたちの主イエス・キリストの現れを待ち望んでいます。

1:8 主も最後まであなたがたをしっかり支えて、わたしたちの主イエス・キリストの日に、非のうちどころのない者にしてくださいます。

1:9 神は真実な方です。この神によって、あなたがたは神の子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです。

1:10 さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心をつにし思いをつにして、固く結び合いなさい。

1:11 わたしの兄弟たち、実はあなたがたの間に争いがあると、クロエの家の人たちから知らされました。

1:12 あなたがたはめいめい、「わたしはパウロにつく」「わたしはアポロに」「わたしはケファに」「わたしはキリストに」などと言い合っているとのことですよ。

1:13 キリストは幾つにも分けられてしまったのですか。パウロがあなたがたのために十字架につけられたのですか。あなたがたはパウロの名によって洗礼を受けたのですか。

1:14 クリスポとガイオ以外に、あなたがたのだれにも洗礼を受けなかったことを、わたしは神に感謝しています。

1:15 だから、わたしの名によって洗礼を受けたなどと、だれも言えないはずです。

1:16 もっとも、ステファナの家の人たちにも洗礼を受けましたが、それ以外はだれにも授けた覚えはありません。

1:17 なぜなら、キリストがわたしを遣わされたのは、洗礼を授けるためではなく、

1:6 キリストのためのあかしが、あなたがたのうちに確かなものとされ、

1:7 こうして、あなたがたは恵みの賜物にいささかも欠けることがなく、わたしたちの主イエス・キリストの現れるのを待ち望んでいる。

1:8 主もまた、あなたがたを最後まで堅くささえて、わたしたちの主イエス・キリストの日に、責められるところのない者にして下さるであろう。

1:9 神は真実な方である。あなたがたは神によって召され、御子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに、はいらせていただいたのである。

1:10 さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたに勧める。みな語ることを一つにして、お互の間に分争がないようにし、同じ心、同じ思いになって、堅く結び合っていてほしい。

1:11 わたしの兄弟たちよ。実は、クロエの家の者たちから、あなたがたの間に争いがあると聞かされている。

1:12 はっきり言うと、あなたがたがそれぞれ、「わたしはパウロにつく」「わたしはアポロに」「わたしはケパに」「わたしはキリストに」と言い合っていることである。

1:13 キリストは、いくつにも分けられたのか。パウロは、あなたがたのために十字架につけられたことがあるのか。それとも、あなたがたは、パウロの名によってバプテスマを受けたのか。

1:14 わたしは感謝しているが、クリスポとガイオ以外には、あなたがたのうちのだれにも、バプテスマを授けたことがない。

1:15 それはあなたがたがわたしの名によってバプテスマを受けたのだと、だれにも言われることのないためである。

1:16 もっとも、ステパナの家の者たちには、バプテスマを授けたことがある。しかし、そのほかには、だれにも授けた覚えがない。

1:17 いったい、キリストがわたしをつかわされたのは、バプテスマを授けるため

福音を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの十字架がむなしなものになってしまわぬように、言葉の知恵によらないで告げ知らせるためだからです。

ではなく、福音を宣べ伝えるためであり、しかも知恵の言葉を用いずに宣べ伝えるためであった。それは、キリストの十字架が無力なものになってしまわないためなのである。

日曜日 7月5日 十字架の福音

私たちにとって、十字架の言葉は神の力であると、パウロは述べています。彼の説教の中心が「イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト」〔口語訳「イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト」〕(Ⅰコリ 2:2)であったことは、驚くにあたりません。

問1 I コリント 1:17～31 を読んでください。パウロはここで、どんな重要なことを述べていますか。

I コリント1:18～31でパウロは、人間の愚かさや神の知恵を対比し、十字架には、人間の最悪の部分と神の最高の部分を明らかにする力があると言っています。この箇所は、I コリント1:17の言葉によって始まっています。キリストの十字架がむなしものになってしまわないように(Ⅰコリ 1:17)、十字架の言葉が私たちの宣教の中心を占めなければなりません(同 2:2も参照)。

パウロは、自分が遣わされたのはバプテスマを授けるためではなく、十字架の福音を告げ知らせるためであると述べています。この言葉には、注目すべき重要な点が二つあります。第一に、「遣わす」と訳されているギリシア語の動詞「アポステッロー」が、「使徒」という言葉(アポストロス)と同じ語根であることです。したがって、パウロの使徒としての基本的な務めは、福音を宣べ伝えることなのです。第二に、バプテスマについてのパウロの言葉は、バプテスマが重要ではない、あるいは少なくとも宣教することほど重要ではないという意味ではなかったことです。そうではなく彼は、バプテスマを受けて結ばれたお方であるイエスに目を向けるのではなく、バプテスマを誰が授けたかを重大視する人々を叱責していたのです。

パウロは、「言葉の知恵」〔口語訳「知恵の言葉」〕(同 1:17)という表現によって、雄弁に語ることが悪いと暗に言っているものではありません。重要なのは、人間の知恵が十字架の言葉を曖昧にしてはならないということです。この表現は、ギリシア・ローマ的な修辞学を指しています。アテネでパウロは、論理、科学、哲学を用いましたが、ほとんど実を結びませんでした。そこで、「コリントでは、また別の伝道方法によって、軽率で無関心な人々の心をとらえようと決めた。彼は難しい議論や討論を避けて、『イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは』、コリント人の間では『何も知るまい』と決心した」のです(『希望への光』1448 ページ、『患難から栄光へ』第24章)。

難しい議論は、いかに十字架の言葉を曖昧にしてしまいますか。十字架につけられたキリストを宣べ伝えたことは、なぜコリントで多くの実を結びましたか。

【参考】英語テキストにある全文

In what ways can elaborate discourses obscure the message of the Cross? Why did the proclamation of Jesus Christ and Him crucified produce more fruit in Corinth than logic, science, and philosophy did in Athens? Might there, however, be times that logic, philosophy, and science could be helpful in proclaiming the gospel?

難しい議論は、いかに十字架の言葉を曖昧にしてしまいますか。イエス・キリストとその十字架の死を宣べ伝えることが、アテネにおける論理学、科学、哲学よりも、なぜコリントで多くの実を結びましたか。しかし、福音宣教において、論理学、哲学、科学が役立つ場合もあるのではないのでしょうか。

12

I コリ 2:2 (新共同訳)

2:2 なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。

I コリ 1:17~31 (新共同訳)

1:17 なぜなら、キリストがわたしを遣わされたのは、洗礼を授けるためではなく、福音を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの十字架がむなしなものになってしまわぬように、言葉の知恵によらないで告げ知らせるためだからです。

1:18 十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。

1:19 それは、こう書いてあるからです。

「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さを意味のないものにします。」

1:20 知恵のある人はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。神はこの世の知恵を愚かなものにされたではないか。

1:21 世は自分の知恵で神を知ることができませんでした。それは神の知恵にかかっています。そこで神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになったのです。

1:22 ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、

I コリ 2:2 (口語訳)

2:2 なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。

I コリ 1:17~31 (口語訳)

1:17 いったい、キリストがわたしをつかわされたのは、バプテスマを授けるためではなく、福音を宣べ伝えるためであり、しかも知恵の言葉を用いずに宣べ伝えるためであった。それは、キリストの十字架が無力なものになってしまわないためなのである。

1:18 十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあずかるわたしたちには、神の力である。

1:19 すなわち、聖書に、「わたしは知者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなしものにします」と書いてある。

1:20 知者はどこにいるか。学者はどこにいるか。この世の論客はどこにいるか。神はこの世の知恵を、愚かにされたではないか。

1:21 この世は、自分の知恵によって神を認めるに至らなかった。それは、神の知恵にかかっている。そこで神は、宣教の愚かさによって、信じる者を救うこととされたのである。

1:22 ユダヤ人はしるしを請い、ギリシヤ人は知恵を求める。

1:23 わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまづかせるもの、異邦人には愚かなものですが、

1:24 ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。

1:25 神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

1:26 兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。

1:27 ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました。

1:28 また、神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。

1:29 それは、だれ一人、神の前で誇ることがないようにするためです。

1:30 神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。

1:31 「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。

1:23 しかしわたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝える。このキリストは、ユダヤ人にはつまづかせるもの、異邦人には愚かなものであるが、

1:24 召された者自身にとっては、ユダヤ人にもギリシア人にも、神の力、神の知恵たるキリストなのである。

1:25 神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからである。

1:26 兄弟たちよ。あなたがたが召された時のことを考えてみるがよい。人間的には、知恵のある者が多くはなく、権力のある者も多くはなく、身分の高い者も多くはない。

1:27 それなのに神は、知者をはずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者をはずかしめるために、この世の弱い者を選び、

1:28 有力な者を無力な者にするために、この世で身分の低い者や軽んじられている者、すなわち、無きに等しい者を、あえて選ばれたのである。

1:29 それは、どんな人間でも、神のみまに誇ることがないためである。

1:30 あなたがたがキリスト・イエスにあるのは、神によるのである。キリストは神に立てられて、わたしたちの知恵となり、義と聖とあがないとになられたのである。

1:31 それは、「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりである。

月曜日 7月6日 滅んでいく者にとっての愚かさ

パウロは、人間の愚かさと神の知恵を対比させ、「十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものです」〔口語訳「十字架の言は、滅び行く者には愚かである」〕(Iコリ1:18)と述べています。これは、Iコリント1:18～31において、「愚かなもの」とか「愚かさ」という言葉が6回用いられる〔英訳聖書 *foolishness* または *foolish*〕うちの最初の箇所です。

問2 Iコリント1:20、21、23、25を読んでください。これらの「愚かなもの」「愚かな」「愚かさ」といった言葉は、パウロが「十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものである」と言った意味を理解するうえで、いかに役立ちますか。

I コリント 1:18 の「愚かなもの(愚か)」に相当するギリシア語は、「モーリア」です。この言葉は、新約聖書に5回しか出てこず、すべてコリントの信徒への手紙 I (コリント人への第一の手紙) に登場します(I コリ 1:18、21、23、2:14、3:19)。新約聖書には、モーリアという言葉以外にも同じ語源を持つほかの言葉が数多く見られます。

I コリント 1:18 節、23 節における「愚かさ」への言及は、コリント人たちの知的能力を貶めるものではなく、彼らが福音の真理を受け入れようとしないうちに注意を向けさせるためのものです。だからこそパウロは、不道德な行いや考え、分別する力の欠如、さらには神への反逆といった問題にも立ち向かわなければなりませんでした。

この町でのパウロの状況を考えてみてください。彼は、いわゆる知識と知恵、文化的洗練さを自負する場所にやってきました。そして、そのような状況の中で、ナザレのイエスというガリラヤのユダヤ人について語ります。その人は、ローマ人によって十字架にかけられ、やがて死者の中から復活したが、それはすべて、彼らの罪だけでなく、世界の罪の代価を支払うためであったということです。「この男は正気なのか」「誰がそんなことを信じるのか」……。それは、哲学的手法を用いて解釈し、分析できるような、深遠で新しい哲学的概念ではありませんでした。むしろ狂気であり、ナンセンスであり、賢明で教養のあるコリントの人々が真剣に受け止められるようなものではありませんでした。

パウロのメッセージは、異教徒には愚かに聞こえたかもしれませんが、多くのユダヤ人にとって、十字架の言葉は、それ以上にひどいものでした。メシアがローマによって処刑されるなどと、ユダヤ人の誰が予想していたのでしょうか。メシアはローマ人を倒すはずで、十字架にかかることなどありえませんでした。

このように、パウロは最初からコリントで不利な立場に立たされていました。それにもかかわらず、ユダヤ人と異邦人の魂は福音を受け入れたのでした。

【参考】英語テキストには続きの文があります。

The message here? Whatever opposition we face, God has people who are open to hearing the truth. We must be ready to be used by Him to reach these people wherever they are, even in places today that are as bad as, or even worse than, Corinth was.

ここでのメッセージとは…。どんな反対に直面しようとも、神は真理に耳を傾ける人々を用意しておられます。私たちは、たとえコリントと同じか、あるいはそれ以上に悪しき状況にある場所であっても、どこにしようとも、これらの人々に福音を伝えるために、神に用いられる準備をしておかねばなりません。

13

I コリ 1:18～31 (新共同訳)

1:18 十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。

1:19 それは、こう書いてあるからです。

「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さを意味のないものにします。」

I コリ 1:18～31 (口語訳)

1:18 十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあずかるわたしたちには、神の力である。

1:19 すなわち、聖書に、「わたしは知者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなしものにします」と書いてある。

1:20 知恵のある人はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。神は世の知恵を愚かなものにされたではないか。

1:21 世は自分の知恵で神を知ることができませんでした。それは神の知恵にかなっています。そこで神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになったのです。

1:22 ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、

1:23 わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、

1:24 ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。

1:25 神の愚かさには人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

1:26 兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。

1:27 ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました。

1:28 また、神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。

1:29 それは、だれ一人、神の前で誇ることはないようにするためです。

1:30 神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。

1:31 「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。

【参考】 I Cor 1:18～31 (NKJV)

1:18 For the message of the cross is **foolishness** to those who are perishing, but to us who are being saved it is the power of God.

1:19 For it is written: "I will destroy the wisdom of the wise, And bring to nothing the

1:20 知者はどこにいるか。学者はどこにいるか。この世の論客はどこにいるか。神はこの世の知恵を、愚かにされたではないか。

1:21 この世は、自分の知恵によって神を認めるに至らなかった。それは、神の知恵にかなっている。そこで神は、宣教の愚かさによって、信じる者を救うこととされたのである。

1:22 ユダヤ人はしるしを請い、ギリシア人は知恵を求める。

1:23 しかしわたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝える。このキリストは、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものであるが、

1:24 召された者自身にとっては、ユダヤ人にもギリシア人にも、神の力、神の知恵たるキリストなのである。

1:25 神の愚かさには人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからである。

1:26 兄弟たちよ。あなたがたが召された時のことを考えてみるがよい。人間的には、知恵のある者が多くはなく、権力のある者も多くはなく、身分の高い者も多くはない。

1:27 それなのに神は、知者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選び、

1:28 有力な者を無力な者にするために、この世で身分の低い者や軽んじられている者、すなわち、無きに等しい者を、あえて選ばれたのである。

1:29 それは、どんな人間でも、神のみまに誇ることはないためである。

1:30 あなたがたがキリスト・イエスにあるのは、神によるのである。キリストは神に立てられて、わたしたちの知恵となり、義と聖とあがないとになられたのである。

1:31 それは、「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりである。

understanding of the prudent.”

1:20 Where *is* the wise? Where *is* the scribe? Where *is* the disputer of this age? Has not God made **foolish** the wisdom of this world?

1:21 For since, in the wisdom of God, the world through wisdom did not know God, it pleased God through the **foolishness** of the message preached to save those who believe.

1:22 For Jews request a sign, and Greeks seek after wisdom;

1:23 but we preach Christ crucified, to the Jews a stumbling block and to the Greeks **foolishness**,

1:24 but to those who are called, both Jews and Greeks, Christ the power of God and the wisdom of God.

1:25 Because the **foolishness** of God is wiser than men, and the weakness of God is stronger than men.

1:26 For you see your calling, brethren, that not many wise according to the flesh, not many mighty, not many noble, *are called*.

1:27 But God has chosen the **foolish** things of the world to put to shame the wise, and God has chosen the weak things of the world to put to shame the things which are mighty;

1:28 and the base things of the world and the things which are despised God has chosen, and the things which are not, to bring to nothing the things that are,

1:29 that no flesh should glory in His presence.

1:30 But of Him you are in Christ Jesus, who became for us wisdom from God—and righteousness and sanctification and redemption—

1:31 that, as it is written, “He who glories, let him glory in the Lord.”

I コリ 2:14 (新共同訳)

2:14 自然の人は神の霊に属する事柄を受け入れません。その人にとって、それは愚かなことであり、理解できないのです。霊によって初めて判断できるからです。

I コリ 3:19 (新共同訳)

3:19 この世の知恵は、神の前では愚かなものだからです。「神は、知恵のある者たちを/その悪賢さによって捕らえられる」と書いてあり、

I コリ 2:14 (口語訳)

2:14 生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。

I コリ 3:19 (口語訳)

3:19 なぜなら、この世の知恵は、神の前では愚かなものだからである。「神は、知者たちをその悪知恵によって捕える」と書いてあり、

火曜日 7月7日 救われる者にとっての力

I コリント1:18のメッセージはあまりにも明瞭であり、その要点を見落とすことはありません。十字架の意味は、それをどのように受け止めるかによって異なります。神に反抗する者にとっては愚かなものですが、神の救いを切望する者にとっては力です。

問3 コロサイ1:20とIペトロ(ペテロ)2:24を読んでください。イエスは十字架の上で、私たちのためにどんなことを成し遂げてくださいましたか。

すでに見たように、福音を告げ知らせる際には、「キリストの十字架がむなしいものになってしまわぬように、言葉の知恵によらないで告げ知らせ」(I コリ1:17)

なければなりません〔口語訳「知恵の言葉を用いずに宣べ伝えるためであった。それは、キリストの十字架が無力なものになってしまわないためなのである」〕。Ⅰコリント1:17と照らし合わせると、「愚かなもの」の反意語は「神の力」であって、なぜ人間の知恵ではないのかが理解しやすくなります(同 1:18)。人間の知恵とはまったく相反する十字架は、人間の知恵がいかに愚かであるかを明らかにするのです。

Ⅰコリント1:18のギリシア語原文は、「滅んでいく者」〔口語訳「滅び行く者」〕が自分の行いの報いを受けていることを示唆しています。この文は、「十字架の言葉は、自らを滅ぼす者にとっては愚かなものです」と読めるのです。ギリシア語の動詞「アポリュミ」(「滅びる」)には、「滅ぼす」という意味もあります(ヨハ 10:10)。実際、Ⅰコリント1:19では、この動詞が「滅ぼす」と訳されています。

ここで何が起きているのでしょうか。パウロは、18節で述べていることの聖書の根拠として、イザヤ29:14の神の言葉を19節で引用しています。19節では、神が滅びの背後におられると述べられていますが、それは直前に述べられた自己破滅的な傲慢と矛盾しているように見えます。しかし、矛盾はありません。そもそもすでに自滅しつつある者を、神が滅ぼされるということです。

「滅んでいく者」〔口語訳「滅び行く者」〕とは対照的に、「わたしたち救われる者」〔口語訳「救にあずかるわたしたち」〕(Ⅰコリ 1:18)という表現は、救いは神からのみもたらされることを示しています。パウロは、私たちは救われるのだ、つまり、私たちは自分自身を救うのではないと言っているのです。言うまでもなく、私たちは自分自身を救うことなどできません。私たちの救いは、外的な源からもたらされます。滅びは自ら招くものですが、救いは罪人への恵みの賜物として、与えられるものなのです。Ⅰコリント1:21で明らかのように、信じる者を救ってくださるのは神です。この意味で、「愚かなもの」とは、神がキリストの十字架を通して人類に与えてくださったもの(同 1:30)を拒絶し、自らに滅びを招く行為のことなのです。

【参考】英語テキストにある文

“For the wages of sin is death, but the gift of God is eternal life in Christ Jesus our Lord” (Rom. 6:23, NKJV). In what ways does this verse restate what Paul was saying in 1 Corinthians 1:18, 19?

「罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです」〔口語訳「罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである」〕(ロマ 6:23)。この聖句は、パウロがⅠコリント1:18、19で述べていることをどのように言い換えているのでしょうか。

14

Ⅰコリ 1:17～30 (新共同訳)
1:17 なぜなら、キリストがわたしを遣わされたのは、洗礼を受けるためではなく、福音を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの十字架がむなしいものになっ

Ⅰコリ 1:17～30 (口語訳)
1:17 いったい、キリストがわたしをつかわされたのは、バプテスマを受けるためではなく、福音を宣べ伝えるためであり、しかも知恵の言葉を用いずに宣べ伝える

てしまわぬように、言葉の知恵によらないで告げ知らせるためだからです。

1:18 十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。

1:19 それは、こう書いてあるからです。

「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さを意味のないものにする。」

1:20 知恵のある人はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。神はこの世の知恵を愚かなものにされたではないか。

1:21 世は自分の知恵で神を知ることができませんでした。それは神の知恵になっています。そこで神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになったのです。

1:22 ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、

1:23 わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、

1:24 ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。

1:25 神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

1:26 兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。

1:27 ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました。

1:28 また、神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。

1:29 それは、だれ一人、神の前で誇ることがないようにするためです。

1:30 神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わた

ためであった。それは、キリストの十字架が無力なものになってしまわないためなのである。

1:18 十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあずかるわたしたちには、神の力である。

1:19 すなわち、聖書に、「わたしは知者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなしものにする」と書いてある。

1:20 知者はどこにいるか。学者はどこにいるか。この世の論客はどこにいるか。神はこの世の知恵を、愚かにされたではないか。

1:21 この世は、自分の知恵によって神を認めるに至らなかった。それは、神の知恵になっっている。そこで神は、宣教の愚かさによって、信じる者を救うこととされたのである。

1:22 ユダヤ人はしるしを請い、ギリシヤ人は知恵を求める。

1:23 しかしわたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝える。このキリストは、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものであるが、

1:24 召された者自身にとっては、ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神の力、神の知恵たるキリストなのである。

1:25 神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからである。

1:26 兄弟たちよ。あなたがたが召された時のことを考えてみるがよい。人間的には、知恵のある者が多くはなく、権力のある者も多くはなく、身分の高い者も多くはない。

1:27 それなのに神は、知者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選び、

1:28 有力な者を無力な者にするために、この世で身分の低い者や軽んじられている者、すなわち、無きに等しい者を、あえて選ばれたのである。

1:29 それは、どんな人間でも、神のみまえに誇ることがないためである。

1:30 あなたがたがキリスト・イエスにあるのは、神によるのである。キリストは

したちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。

I ペト 2:24 (新共同訳)

2:24 そして、十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました。

ヨハ 10:10 (新共同訳)

10:10 盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。

イザ 29:14 (新共同訳)

29:14 それゆえ、見よ、わたしは再び/驚くべき業を重ねて、この民を驚かす。賢者の知恵は滅び/聡明な者の分別は隠される。」

ロマ 6:23 (新共同訳)

6:23 罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。

神に立てられて、わたしたちの知恵となり、義と聖とあがないとになられたのである。

I ペテ 2:24 (口語訳)

2:24 さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。

ヨハ 10:10 (口語訳)

10:10 盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。

イザ 29:14 (口語訳)

29:14 それゆえ、見よ、わたしはこの民に、再び驚くべきわざを行う、それは不思議な驚くべきわざである。彼らのうちの賢い人の知恵は滅び、さとい人の知識は隠される。」

ロマ 6:23 (口語訳)

6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

水曜日 7月8日 十字架につけられたメシア

パウロは、「ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探します」〔口語訳「ユダヤ人はしるしを請い、ギリシヤ人は知恵を求める」〕(I コリ 1:22)と書いています。十字架、つまり救い主なる神が十字架につけられるという考えは、ユダヤ人が期待していたしるしでもなければ、ギリシア人が求めていた知恵でもありませんでした。それは誰の期待にも反するものでした。

実際、イエスが十字架につけられるという考えに弟子たちがどう反応したかを読むだけで(マコ 8:31、32、9:30～32、10:32～34 参照)、この考え全体が、とりわけユダヤ人にとって、いかに異質で忌まわしいものであったかがわかります。前述のように、ユダヤ人は、救い主がローマ人を征服することを期待していました。しかしそれは少なくとも、この世的、軍事的な意味での「征服」としては、実現しませんでした。

何世紀にもわたって、十字架はクリスチャンにとって信仰の象徴でした。21世紀のクリスチャンにとって、十字架につけられた神という概念が1世紀の人々の考え方にとってどれほど突飛なものであったかを理解するのは難しいでしょう。

しかし、まさにそれが衝撃的なメッセージであったからこそ、私たちは深く考える価値があります。十字架につけられた救い主の姿は、神が救済計画を遂行するためにどれほどのことをなさろうとしておられたのかを、全宇宙にはっきりと示しています。十字架そのもの、そして主が十字架で死んだという考えは、地上の罪人である私たちにとって十分に驚くべきものです（しかし、天における主イエスを知っており、礼拝していた罪なき者たちにとって、それがどんな意味を持っていたか、想像してみてください！）。

問4 使徒言行録（使徒行伝）13:16～47（特に26、38、47節）を読んでください。この箇所は、十字架の意味について、どんなことを教えてくれますか。

パウロは、福音を告げ知らせるためにキリストが自分を遣わされたと述べています。それゆえにパウロは、十字架につけられた救い主のメッセージを宣べ伝えたのです（Ⅰコリ1:23）。彼はⅠコリント2:1～5でも、このような考えを繰り返しています。使徒パウロはキリストの命令に忠実でした。福音を告げ知らせるときに、「優れた言葉や知恵」〔口語訳「すぐれた言葉や知恵」〕（同2:1）を用いず、「イエス・キリストと、それも十字架につけられたキリスト」〔口語訳「イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト」〕（同2:2）だけに焦点を合わせました。彼の言葉も宣教も、「知恵にあふれた言葉によらず、“霊”と力の証明によるものでした」〔口語訳「知恵の言葉によらないで、霊と力との証明によったのである」〕（同2:4）。なぜなら、実際のところ、「人の知恵」は、「神の力」（Ⅰコリ2:5）とは際立った対照を成すからです。

【参考】英語テキストにある文

A crucified Messiah was something completely unexpected by the Jews and the Greeks. What does this tell us about the fact that God does not always act the way we expect? Why is this an important concept to grasp, especially when things don't go as we have expected?

十字架にかけられたメシアは、ユダヤ人やギリシャ人にとってまったく予想外のことでした。これは、神が必ずしも私たちの期待通りに振る舞うとは限らないという事実について、私たちに何を示唆しているのでしょうか。特に物事が期待通りに進まないとき、なぜこの概念を理解することが重要なのでしょうか。

15

Ⅰコリ1:22（新共同訳）

1:22 ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、

マコ8:31、32（新共同訳）

8:31 それからイエスは、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている、と弟子たちに教え始められた。

Ⅰコリ1:22（口語訳）

1:22 ユダヤ人はしるしを請い、ギリシア人は知恵を求める。

マコ8:31、32（口語訳）

8:31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、

8:32 しかも、そのことをはっきりとお話しになった。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。

マコ 9:30～32 (新共同訳)

9:30 一行はそこを去って、ガリラヤを通って行った。しかし、イエスは人に気づかれるのを好まなかった。

9:31 それは弟子たちに、「人の子は、人々の手に引き渡され、殺される。殺されて三日の後に復活する」と言っておられたからである。

9:32 弟子たちはこの言葉が分からなかったが、怖くて尋ねられなかった。

マコ 10:32～34 (新共同訳)

10:32 一行がエルサレムへ上って行く途中、イエスは先頭に立って進んで行かれた。それを見て、弟子たちは驚き、従う者たちは恐れた。イエスは再び十二人を呼び寄せて、自分の身に起ころうとしていることを話し始められた。

10:33 「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子は祭司長たちや律法学者たちに引き渡される。彼らは死刑を宣告して異邦人に引き渡す。

10:34 異邦人は人の子を侮辱し、唾をかけ、鞭打ったうえで殺す。そして、人の子は三日の後に復活する。」

使徒 13:16～47 (新共同訳)

13:16 そこで、パウロは立ち上がり、手で人々を制して言った。「イスラエルの人たち、ならびに神を畏れる方々、聞いてください。

13:17 この民イスラエルの神は、わたしたちの先祖を選び出し、民がエジプトの地に住んでいる間に、これを強大なものとし、高く上げた御腕をもってそこから導き出してくださいました。

13:18 神はおよそ四十年の間、荒れ野で彼らの行いを耐え忍び、

13:19 カナンの地では七つの民族を滅ぼし、その土地を彼らに相続させてくださったのです。

13:20 これは、約四百五十年にわたることでした。その後、神は預言者サムエル

8:32 しかもあからさまに、この事を話された。すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめたので、

マコ 9:30～32 (口語訳)

9:30 それから彼らはそこを立ち去り、ガリラヤをとおって行ったが、イエスは人に気づかれるのを好まなかった。

9:31 それは、イエスが弟子たちに教えて、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえるであろう」と言っておられたからである。

9:32 しかし、彼らはイエスの言われたことを悟らず、また尋ねるのを恐れていた。

マコ 10:32～34 (口語訳)

10:32 さて、一同はエルサレムへ上る途上にあつたが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身に起ころうとすることについて語りはじめられた、

10:33 「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわたすであろう。

10:34 また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。

使徒 13:16～47 (口語訳)

13:16 そこでパウロが立ちあがり、手を振りながら言った。「イスラエルの人たち、ならびに神を敬うかたがたよ、お聞き下さい。

13:17 この民イスラエルの神は、わたしたちの先祖を選び、エジプトの地に滞在中、この民を大いなるものとし、み腕を高くさし上げて、彼らをその地から導き出された。

13:18 そして約四十年にわたって、荒野で彼らをはぐくみ、

13:19 カナンの地では七つの異民族を打ち滅ぼし、その地を彼らに譲り与えられた。

13:20 それらのことが約四百五十年の年月にわたった。その後、神はさばき人た

の時代まで、裁く者たちを任命なさいました。

13:21 後に人々が王を求めたので、神は四十年の間、ベニヤミン族の者で、キシユの子サウルをお与えになり、

13:22 それからまた、サウルを退けてダビデを王の位につけ、彼について次のように宣言なさいました。『わたしは、エッサイの子でわたしの心に適う者、ダビデを見いだした。彼はわたしの思うところをすべて行う。』

13:23 神は約束に従って、このダビデの子孫からイスラエルに救い主イエスを送ってくださいなのです。

13:24 ヨハネは、イエスがおいでになる前に、イスラエルの民全体に悔い改めの洗礼を宣べ伝えました。

13:25 その生涯を終えようとするとき、ヨハネはこう言いました。『わたしを何者だと思っているのか。わたしは、あなたが期待しているような者ではない。その方はわたしの後から来られるが、わたしはその足の履物をお脱がせする値打ちもない。』

13:26 兄弟たち、アブラハムの子孫の方々、ならびにあなたがたの中にいて神を畏れる人たち、この救いの言葉はわたしたちに送られました。

13:27 エルサレムに住む人々やその指導者たちは、イエスを認めず、また、安息日ごとに読まれる預言者の言葉を理解せず、イエスを罪に定めることによって、その言葉を実現させたのです。

13:28 そして、死に当たる理由は何も見いだせなかったのに、イエスを死刑にするようにとピラトに求めました。

13:29 こうして、イエスについて書かれていることがすべて実現した後、人々はイエスを木から降ろし、墓に葬りました。

13:30 しかし、神はイエスを死者の中から復活させてくださったのです。

13:31 このイエスは、御自分と一緒にガリラヤからエルサレムに上った人々に、日にもわたって姿を現されました。その人たちは、今、民に対してイエスの証人となっています。

ちをおつかわしになり、預言者サムエルの時に及んだ。

13:21 その時、人々が王を要求したので、神はベニヤミン族の人、キスの子サウルを四十年間、彼らにおつかわしになった。

13:22 それから神はサウルを退け、ダビデを立てて王とされたが、彼についてあかしをして、『わたしはエッサイの子ダビデを見つけた。彼はわたしの心になった人で、わたしの思うところを、ことごとく実行してくれるであろう』と言われた。

13:23 神は約束にしたがって、このダビデの子孫の中から救主イエスをイスラエルに送られたが、

13:24 そのこれる前に、ヨハネがイスラエルのすべての民に悔改めのバプテスマを、あらかじめ宣べ伝えていた。

13:25 ヨハネはその一生の行程を終ろうとするに当たって言った、『わたしは、あなたがたが考えているような者ではない。しかし、わたしのあとから来るかたがいる。わたしはそのくつを脱がせてあげる値うちもない』。

13:26 兄弟たち、アブラハムの子孫のかたがた、ならびに皆さんの中の神を敬う人たちが、この救いの言葉はわたしたちに送られたのである。

13:27 エルサレムに住む人々やその指導者たちは、イエスを認めずに刑に処し、それによって、安息日ごとに読む預言者の言葉が成就した。

13:28 また、なんら死に当たる理由が見いだせなかったのに、ピラトに強要してイエスを殺してしまった。

13:29 そして、イエスについて書いてあることを、皆なし遂げてから、人々はイエスを木から取りおろして墓に葬った。

13:30 しかし、神はイエスを死人の中から、よみがえらせたのである。

13:31 イエスは、ガリラヤからエルサレムへ一緒に上った人たちに、幾日もあいだ現れ、そして、彼らは今や、人々に對してイエスの証人となっている。

13:32 わたしたちも、先祖に与えられた約束について、あなたがたに福音を告げ知らせています。

13:33 つまり、神はイエスを復活させて、わたしたち子孫のためにその約束を果たしてくださったのです。それは詩編の第二編にも、『あなたはわたしの子、わたしは今日あなたを産んだ』と書いてあるとおりです。

13:34 また、イエスを死者の中から復活させ、もはや朽ち果てることがないようになさったことについては、『わたしは、ダビデに約束した/聖なる、確かな祝福をあなたたちに与える』と言っておられます。

13:35 ですから、ほかの個所にも、『あなたは、あなたの聖なる者を/朽ち果てるままにしてはおかれない』とされています。

13:36 ダビデは、彼の時代に神の計画に仕えた後、眠りについて、祖先の列に加えられ、朽ち果てました。

13:37 しかし、神が復活させたこの方は、朽ち果てることがなかったのです。

13:38 だから、兄弟たち、知っていただきたい。この方による罪の赦しが告げ知らされ、また、あなたがたがモーセの律法では義とされえなかったのに、

13:39 信じる者は皆、この方によって義とされるのです。

13:40 それで、預言者の書に言われていることが起こらないように、警戒しなさい。

13:41 『見よ、侮る者よ、驚け。滅び去れ。わたしは、お前たちの時代に一つの事を行う。人が詳しく説明しても、お前たちにはとうてい信じられない事を。』

13:42 パウロとバルナバが会堂を出るとき、人々は次の安息日にも同じことを話してくれるようにと頼んだ。

13:43 集会が終わってからも、多くのユダヤ人と神をあがめる改宗者とがついて

13:32 わたしたちは、神が先祖たちに対してなされた約束を、ここに宣べ伝えているのである。

13:33 神は、イエスをよみがえらせて、わたしたち子孫にこの約束を、お果しになった。それは詩篇の第二篇にも、『あなたこそは、わたしの子。きょう、わたしはあなたを生んだ』と書いてあるとおりである。

13:34 また、神がイエスを死人の中からよみがえらせて、いつまでも朽ち果てることのないものとされたことについては、『わたしは、ダビデに約束した確かな聖なる祝福を、あなたがたに授けよう』と言われた。

13:35 だから、ほかの箇所でもこう言うておられる、『あなたの聖者が朽ち果てるようなことは、お許しにならないであらう』。

13:36 事実、ダビデは、その時代の人々に神のみ旨にしたがって仕えたが、やがて眠りにつき、先祖たちの中に加えられて、ついに朽ち果ててしまった。

13:37 しかし、神がよみがえらせたかたは、朽ち果てることがなかったのである。

13:38 だから、兄弟たちよ、この事を承知しておくがよい。すなわち、このイエスによる罪のゆるしの福音が、今やあなたがたに宣べ伝えられている。そして、モーセの律法では義とされることができなかったすべての事についても、

13:39 信じる者はもれなく、イエスによって義とされるのである。

13:40 だから預言者たちの書にかいてある次のようなことが、あなたがたの身に起らないように気をつけなさい。

13:41 『見よ、侮る者たちよ。驚け、そして滅び去れ。わたしは、あなたがたの時代に一つの事をする。それは、人がどんなに説明して聞かせても、あなたがたのとうてい信じないような事なのである』。

13:42 ふたりが会堂を出る時、人々は次の安息日にも、これと同じ話をしてくれるようにと、しきりに願った。

13:43 そして集会が終わってからも、大ぜいのユダヤ人や信心深い改宗者たちが、

来たので、二人は彼らと語り合い、神の恵みの下に生き続けるように勧めた。

13:44 次の安息日になると、ほとんど町中の人が主の言葉を聞こうとして集まって来た。

13:45 しかし、ユダヤ人はこの群衆を見てひどくねたみ、口汚くののしって、パウロの話すことに反対した。

13:46 そこで、パウロとバルナバは勇敢に語った。「神の言葉は、まずあなたがたに語られるはずでした。だがあなたがたはそれを拒み、自分自身を永遠の命を得るに値しない者になっている。見なさい、わたしたちは異邦人の方に行く。

13:47 主はわたしたちにこう命じておられるからです。『わたしは、あなたを異邦人の光と定めた、あなたが、地の果てにまでも/救いをもたらすために。』

I コリ 1:23 (新共同訳)

1:23 わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、

I コリ 2:1~5 (新共同訳)

2:1 兄弟たち、わたしもそちらに行ったとき、神の秘められた計画を宣べ伝えるのに優れた言葉や知恵を用いませんでした。

2:2 なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。

2:3 そちらに行ったとき、わたしは衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく不安でした。

2:4 わたしの言葉もわたしの宣教も、知恵にあふれた言葉によらず、“霊”と力の証明によるものでした。

2:5 それは、あなたがたが人の知恵によってではなく、神の力によって信じるようになるためでした。

パウロとバルナバとについてきたので、ふたりは、彼らが引きつづき神のめぐみにとどまっているようにと、説きすすめた。

13:44 次の安息日には、ほとんど全市をあげて、神の言を聞きに集まってきた。

13:45 するとユダヤ人たちは、その群衆を見てねたましく思い、パウロの語ることに口ぎたなく反対した。

13:46 パウロとバルナバとは大胆に語った、「神の言は、まず、あなたがたに語り伝えられなければならなかった。しかし、あなたがたはそれを退け、自分自身を永遠の命にふさわしからぬ者にしてしまったから、さあ、わたしたちはこれから方向をかえて、異邦人たちの方に行くのだ。

13:47 主はわたしたちに、こう命じておられる、『わたしは、あなたを立てて異邦人の光とした。あなたが地の果までも救をもたらすためである』。

I コリ 1:23 (口語訳)

1:23 しかしわたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝える。このキリストは、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものであるが、

I コリ 2:1~5 (口語訳)

2:1 兄弟たちよ。わたしもまた、あなたがたの所に行ったとき、神のあかしを宣べ伝えるのに、すぐれた言葉や知恵を用いなかった。

2:2 なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。

2:3 わたしがあなたがたの所に行った時には、弱くかつ恐れ、ひどく不安であった。

2:4 そして、わたしの言葉もわたしの宣教も、巧みな知恵の言葉によらないで、霊と力との証明によったのである。

2:5 それは、あなたがたの信仰が人の知恵によらないで、神の力によるものとなるためであった。

I コリント1:19、20、30、31でパウロは、神の知恵と人間の知恵が驚くほど異なっており、したがって互いに相容れないと語っています。パウロが知恵そのものを否定しているのではなく、神に対抗しようとする人間の知恵を否定していることに注目してください。人間の知恵には、人を罪から解放する力がありません。神の知恵であるキリストだけが、この働きをなすことができになります。次の表を見てください。

わたしたち救われる者には (救にあずかるわたしたちには)	十字架の言葉が神の力 (十字架の言は神の力)	I コリント 1:18
召された者には (召された者自身にとっては)	キリストが神の力	I コリント 1:24

I コリント1:18も同1:24も、キリストが、人々を罪から救う力を持っておられるという意味で、神の力であることを示しています。実際、「神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになったのです」〔口語訳「神は、宣教の愚かさによって、信じる者を救うこととされたのである」〕(I コリ 1:21)。「わたしたち救われる者」〔口語訳「救にあずかるわたしたち」〕(同 1:18)、「信じる者」(同 1:21)、「召された者」(同 1:24)という表現は、同じグループ、すなわち信仰による救いの経験を生きている人々を指します。「〔キリストの〕福音は、……信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです」〔口語訳「福音……それは、……すべて信じる者に、救を得させる神の力である」〕(ロマ 1:16)。

キリストは、神の力であるだけでなく、神の知恵でもあります。これは、キリストを通して神が罪という問題、人間の知恵では解決できなかった問題に立ち向かい、それを解決して下さったことを意味します。この世の知恵は、人々に神を知らせることができません(I コリ 1:21)。逆に、キリストを通して、私たちは救いに導く知恵を得るのです(II テモ 3:15)。

問5 I コリント 1:24～29 を読んでください。そこに出てくる「愚かさ」「弱さ」「知恵ある」「力ある(口語訳:強い)」といった言葉に注目してください。彼は何を言おうとしているのでしょうか。

I コリント1:24～29を読むとき、「愚かさ」(または「無学な」)や「弱さ」(または「無力な」)といった言葉にも注目しなければなりません。重要なのは、人間の知恵は、十字架の言葉を愚かさや弱さと考えてしまうかもしれないという点です。しかし、「神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強い」(I コリ 1:25)のです。これ

は、神が弱いとか愚かであるという意味ではなく、神の力と知恵が人間的でないものをもはるかに超えていることを示す表現にすぎません。

【参考】英語テキストにある文

Dwell on the words “that not many wise according to the flesh, not many mighty, not many noble, are called” (1 Cor. 1:26, NKJV). What message is there for us?

「人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません」[口語訳「人間的には、知恵のある者が多くはなく、権力のある者も多くはなく、身分の高い者も多くはない」](Iコリ1:26)について、じっくり考えてみましょう。そこには、私たちへのどのようなメッセージが込められているのでしょうか。

16

Iコリ 1:18～31 (新共同訳)

1:18 十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。

1:19 それは、こう書いてあるからです。

「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さを意味のないものにします。」

1:20 知恵のある人はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。神はこの世の知恵を愚かなものにされたではないか。

1:21 世は自分の知恵で神を知ることができませんでした。それは神の知恵にかなっています。そこで神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになったのです。

1:22 ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、

1:23 わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、

1:24 ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。

1:25 神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

1:26 兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけ

Iコリ 1:18～31 (口語訳)

1:18 十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあずかるわたしたちには、神の力である。

1:19 すなわち、聖書に、「わたしは知者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなしものにします」と書いてある。

1:20 知者はどこにいるか。学者はどこにいるか。この世の論者はどこにいるか。神はこの世の知恵を、愚かにされたではないか。

1:21 この世は、自分の知恵によって神を認めるに至らなかった。それは、神の知恵にかなっている。そこで神は、宣教の愚かさによって、信じる者を救うこととされたのである。

1:22 ユダヤ人はしるしを請い、ギリシヤ人は知恵を求める。

1:23 しかしわたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝える。このキリストは、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものであるが、

1:24 召された者自身にとっては、ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神の力、神の知恵たるキリストなのである。

1:25 神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからである。

1:26 兄弟たちよ。あなたがたが召された時のことを考えてみるがよい。人間的には、知恵のある者が多くはなく、権力の

ではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。

1:27 ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました。

1:28 また、神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。

1:29 それは、だれ一人、神の前で誇ることがないようにするためです。

1:30 神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。

1:31 「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。

ロマ 1:16 (新共同訳)

1:16 わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。

Ⅱテモ 3:15 (新共同訳)

3:15 また、自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。

ある者も多くはなく、身分の高い者も多くはない。

1:27 それなのに神は、知者をはずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者をはずかしめるために、この世の弱い者を選び、

1:28 有力な者を無力な者にするために、この世で身分の低い者や軽んじられている者、すなわち、無きに等しい者を、あえて選ばれたのである。

1:29 それは、どんな人間でも、神のみまに誇るることがないためである。

1:30 あなたがたがキリスト・イエスにあるのは、神によるのである。キリストは神に立てられて、わたしたちの知恵となり、義と聖とあがないになられたのである。

1:31 それは、「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりである。

ロマ 1:16 (口語訳)

1:16 わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、すべて信じる者に、救を得させる神の力である。

Ⅱテモ 3:15 (口語訳)

3:15 また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与える書物であることを知っている。

金曜日 7月10日 さらなる研究

参考資料として、『各時代の希望』第78章「カルバリー」を読んでください。

「現代に住む人々の心にとって、カルバリーの十字架は神聖な思い出に包まれたものである。キリストの受難の光景は神聖なものを連想させる。しかし、パウロの時代には、十字架は拒絶と恐怖の感情をもって眺められていた。十字架上で死を遂げた者を人類の救い主として支持すれば、当然、嘲笑や反感を呼び起こしたであろう。

パウロは、自分の使命がコリントのユダヤ人やギリシア人にどのように受けとめられるかをよく知っていた。『わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝える。このキリストは、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなもので

ある』と、彼は認めていた(Ⅰコリント1:23)。ユダヤ人の聴衆の中には、パウロが宣べ伝えようとしていた使命に腹を立てる人々がたくさんいたであろう。ギリシア人の見るところでは、パウロの言葉はばかげた愚言であったであろう。十字架が民族を高尚にし、人類を救うことに関係があるということを示そうとしたパウロは、知能の低い者と見なされたであろう。

しかし、パウロにとって、十字架は最高の関心を払うべき唯一の対象であった。パウロは、十字架にかけられたナザレ人に従う者たちを迫害していたさ中に捕らえられて以来、ずっと、十字架をあがめ続けてきた。その時、キリストの死にあらわされた、神の無限の愛についての啓示が彼に与えられたのである。そして、彼の人生に驚くべき変化が起こり、彼のすべての計画と目的が天と一致するようになった。その時からパウロは、キリストにある新しい人になった。罪人が御子の犠牲の中に見られる天父の愛をあおぎ見て、神の感化力に従うとき、心に変化が起こり、それ以後、キリストがすべてであり、すべてのものの内におられると悟るようになることを、パウロは個人的な経験から知った」(『希望への光』1448 ページ、『患難から栄光へ』第24章)。

話し合いのための質問

- ① パウロは、「神の愚かさは人よりも賢(い)」(Ⅰコリ1:25)と言っています。神の知恵は、人間の知恵とどのように大きく異なるのでしょうか。
- ② 十字架につけられたキリストのメッセージは、ユダヤ人にはつまずかせるもの、ギリシア人には愚かなものでした。今日、どんな聖書の主題が同様の反応をもたらすでしょうか。なぜそう思いますか。
- ③ 十字架につけられたキリストのメッセージは、ユダヤ人にはつまずかせるもの、ギリシア人には愚かなものでした。今日、どんな聖書の主題が同様の反応をもたらすでしょうか。なぜそう思いますか。

④ 【参考】英語テキストにある文

Paul says that “the natural man does not receive the things of the Spirit of God” (1 Cor. 2:14, NKJV). So, how can we speak about Jesus to these people in a way that could touch their hearts? Or maybe our actions alone will reach them.

パウロは「自然の人は神の霊に属する事柄を受け入れません」[口語訳「生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けいれない」](Ⅰコリント2:14)と言っています。では、どうすればこうした人々の心に届けられる形でイエスについて語ることができるのでしょうか。あるいは、私たちの行動そのものが彼らの心に届くのかもかもしれません。

17

Ⅰコリ1:23～25 (新共同訳)

1:23 わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、

Ⅰコリ1:23～25 (口語訳)

1:23 しかしわたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝える。このキリストは、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものであるが、

1:24 ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。

1:25 神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

I コリ 2:14 (新共同訳)

2:14 自然の人は神の霊に属する事柄を受け入れません。その人にとって、それは愚かなことであり、理解できないのです。霊によって初めて判断できるからです。

1:24 召された者自身にとっては、ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神の力、神の知恵たるキリストなのである。

1:25 神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからである。

I コリ 2:14 (口語訳)

2:14 生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。

【参考】副読本にある《概要》を転載します。

十字架は、キリスト教信仰の中心的な存在です。そういうわけで、パウロは、「イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていた」〔口語訳「イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心した」〕と言っています(1コリント 2:2)。アテネでの哲学的議論の影響力が限られていることに失望し、コリントに到着すると、複雑な議論ではなく、十字架にかけられたキリストの福音を強調する方向に焦点を変えました。彼は、イエスが私たちを罪から救い、人類を再び神と結びつけていると教えました。信じない者は十字架を愚かだと思えるかもしれませんが、パウロは、それが「救われる者」〔口語訳「救にあずかる(者)」〕にとって神の力と知恵をあらわしていることを示しています(同 1:18)。

I コリ 2:2 (新共同訳)

2:2 なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。

I コリ 1:18 (新共同訳)

1:18 十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。

I コリ 2:2 (口語訳)

2:2 なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。

I コリ 1:18 (口語訳)

1:18 十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあずかるわたしたちには、神の力である。